

2023年度 自己点検・自己評価

2024年4月1日

玉川国際学院文化部

5: 達成している 4: ほぼ達成している 3: どちらともいえない 2: 取り組みを検討中 1: 改善が必要

1. 教育の理念・目標 評価

1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか	5
1-2 学校の特色は明確か	5
1-3 理念に基づく教育が行われているか	5

<現状と課題>

本校は「学習者の日本語コミュニケーション能力を最大限に高める」という明確な理念のもと、日本語教育機関として日本語及び日本文化の伝達に尽力してきた。この理念は全教職員に共有されており、学生も教職員の熱意にこたえて日々真剣に授業に臨んでいる。

2. 学校運営 評価

2-1 運営方針は定められているか	5
2-2 運営方針に沿った事業計画は定められているか	5
2-3 運営組織や意思決定機構は有効に機能しているか	5
2-4 危機管理体制は整備されているか	5
2-5 教育目標達成に必要な教員の知識、能力や資質が明示されているか	5

<現状と課題>

学校設置者が運営方針を策定し、その運営方針に沿って教職員らが具体的な事業計画を作成している。学生の希望進路は大きく分けて就職と進学に大別され、就職の場合は多種多様な業種に細分化され、進学の場合は大学院・大学・専門学校との3つに分かれる。全体会議の際、教職員の適性と学生の進路希望を考慮したうえでクラス分け及び担任配置を決定している。危機管理体制については、教職員間の連絡体制や学校から学生への連絡体制は整っているものの、大災害などで複数の教室が使用できなくなった場合には授業の実施に支障が出る可能性がある。大災害などを想定した詳細なBCP(事業継続計画)を作成することが今後の課題である。教員の知識、能力、資質については、学生の要求(日本語能力試験N1合格等)に応えられる指導力の必要が全教職員に認識されていて、各教職員は指導力向上のために日々研鑽している。

3. 教職員	評価
3-1 教育理念・目的が教職員間で共有されているか	5
3-2 教育の質を向上させるための取り組みが確立されているか	4
3-3 教職員評価が行われているか	4

<現状と課題>

「来日した外国人に最大限の幸福を」という本校の理念は全教職員に共有されており、学生の喜びを自分のこととして喜ぶ職場風土が根付いている。また、毎日午後5時20分から教員ミーティングがあり、教育の質を高めるための話し合いが行われている。教職員評価については、独自の人事考課制度があり、自己評価及び上司による評価を経て昇給昇格等が決定する。

4. 教育活動	評価
4-1 カリキュラムは体系的に編成されているか	5
4-2 成績評価は適切に行われているか	5
4-3 各種日本語試験の合格率向上のための指導体制は整っているか	5
4-4 教育内容及び教育方法について教員間で共通理解が得られているか	5

<現状と課題>

入学時期を問わず、各学生が希望する進学先や就職先の試験に合格できるよう適切なカリキュラムが組み立てられており、学生は安心して学業に専念することができる。成績評価は年4回の定期考査によって厳正に行われている。各種日本語試験の合格率向上のためには、日頃の授業で知識を教授することに加え、直前期に繰り返し問題演習させることによって学生の実力を伸ばしている。本校では、非漢字圏出身の学生にも自由に漢字の読み書きができるようになってほしいという思いから漢字教育に力を入れており、初級・中級クラスでは毎日漢字の宿題を課している。こうした教育については全教員が理解を示しており、根気強く指導に当たっている。学生たちが漢字をより美しく書けるよう指導できればさらによいと考えている。

5. 学生支援	評価
5-1 進路に関する支援体制は整っているか	5
5-2 学生からの相談に乗る体制は有効に機能しているか	5
5-3 学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか	5
5-4 保護者と適切に連携しているか	4

<現状と課題>

進路に関する情報は、入学直後から随時学生に提供されていて、学生たちは多くの選択肢の中から自分にふさわしい進学先や就職先を選択することができる。学生が志望理由書や研究計画書を書く際に困ったことがあれば、いつでも教員室で教員と相談できるシステムになっている。また、長期休暇中であっても学生はSNSを通して教員と進路相談できる。学校の近くには複数の寮があり、学生はリーズナブルな賃料で入居することができる。校内の事務職員が寮を適切に管理していて、寮は常時清潔に保たれている。学生の保護者には担任が定期的に手紙を送っており、学業の到達度や生活態度について詳細に伝えている。

6. 学生の募集と受け入れ	評価
6-1 学生の受入方針は定められているか	5
6-2 学生募集活動は、適正に行われているか	5
6-3 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか	5

<現状と課題>

本校は「日本留学を通して夢を実現したいという強い意志を持つ者」のみを受け入れるという方針で一貫して学生募集を行っている。本校の学生募集担当者が海外の留学仲介業者を定期的に訪問し、本校の教育理念を説明したり授業風景を見せたりしたうえで、適切に学生を募集している。本校への入学希望者に対してスカイプやメールで説明や相談を行う場合もあり、入学希望者にとってコンタクトがとりやすいシステムになっている。入学選考は、書類審査、筆記試験、面接試験を通じて、公正かつ適切に行っている。特に面接試験を重視しており、本校の担当者が直接現地に赴き、入学志願者と直接面接を行っている。意欲のある生徒を募集するため、入学志願者には、就学理由書の提出を求めている。経費支弁能力については、経費支弁者と面談して、提出書類の記載内容の真偽を十分に確認し、必要に応じて、銀行や勤務先に確認したり、より信頼性のある書類の提出を求めたりしている。

7. 在籍管理と生活指導	評価
7-1 日本在留に関する管理と指導が適切に行われているか	5
7-2 日本の法令を遵守させる取り組みが行われているか	5
7-3 学生について常に最新情報を把握しているか	5

<現状と課題>

入学前のオリエンテーションで、「留学」という在留資格で日本に滞在することによるさまざまな制限について丁寧に説明し、さらに授業開始後も随時、出席率維持や法令遵守の重要性について認識させ、法令に違反する学生が出ないように指導している。学生の最新情報については、居住地やアルバイト先が変わった場合に担任が速やかにその詳細を把握できるよう、全教員が常にアンテナを張っている。